

「過去の延長線上に未来はない」

「過去の延長線上に未来はない」と言い切る、この刺激的な言葉と私が出会ったのは、もう20年も前になります。この言葉がキーワードとなっている「ブレイクスルー思考」というものを上司から教えてもらい、それ以来、アイデアを発想する時や問題解決のための判断の際に参考にさせてもらっています。

小説「坂の上の雲」の中で、旅順の攻防戦に手を焼く乃木軍に対して、児玉源太郎総参謀長は次のように言います。「諸君はきのうの専門家であるかもしれん。しかしあすの専門家ではない。」局面打開のためには、過去に拘泥することなく、思い切った戦術変更をすべき事を説いたのです。

ましてや、国際化や情報化が著しく進展し、変化の激しい現代では、過去や現状を分析して、解決策を決めていく、従来の思考法だけでは、多くの問題に的確に対処することが困難となっています。また、現代は、何が起こっても不思議ではなく、未来が予測しづらいという意味でも「過去の延長線上に未来はない」ことは、私たちの実感であり、困惑の要因となっています。そこで、明るい未来を創造するためには、従来の原因分析的な「デカルト思考」から脱皮して「ブレイクスルー思考」を実践すべしと、この思考法を勧める論者は説いています。（※）

「ブレイクスルー」というのは、日本語にすると「突破」という意味ですが、この思考法の最大の特徴は、問題解決にあたって物事の本質、根本を見定めて、未来志向でどうあるべきかを問い、そこから解決策を見出していくことにあります。問題の原因を分析によって見つけ出し、解決しようとする従来の思考方法が「犯人探し型」であるとすれば、「ブレイクスルー思考」は未来の「恋人探し型」と言えるかもしれません。

「目的展開の原則」、 「未来から学ぶ『あるべき姿』の原則」、 「参画・巻き込みの原則」など7つの原則を持つ「ブレイクスルー思考」は、高松市のまちづくりを効果的に推進していくのにも、大きな効用があるのではないかと期待しています。「あすの専門家」たらん、と改革を継続し、過去の延長線上にない明るい高松を創出してまいりたいと思います。

※「ブレイクスルー思考のすすめ」

（日比野創 他 丸善ライブラリー）